



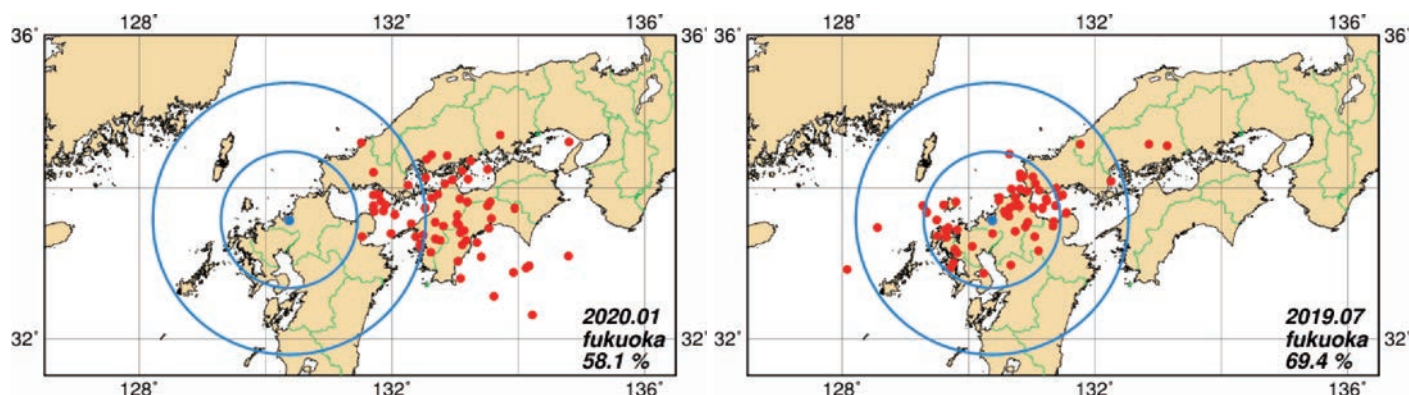
お知らせ

3 高層気象観測と落下した観測機器の取り扱い

気象庁は、高層気象観測を全国16か所の気象官署（九州・山口県では福岡管区気象台、鹿児島地方気象台、名瀬測候所）で、毎日決まった時刻（日本標準時の9時と21時）に行っています。高層気象観測とは、水素ガスを詰めたゴム気球に観測機器（ラジオゾンデ）を吊るして飛ばし、地上から高度約30kmまでの気圧、気温、湿度および風向風速を観測機器のセンサーにより観測を行います。こうして得られた観測データは毎日の天気予報や防災気象情報、気候変動の監視に用いるほか、航空機の安全運航にも欠かせないものとなっています。この観測で用いる観測機器は、上昇中に気象観測を行い、気球の破裂により観測を終了します。その後は、パラシュートによりゆっくり降下し、地上または海上に落下します。

GPSラジオゾンデの種類		気象庁 気象観測器 危険物ではありません	気象観測器を見つけた方への お願い
	IMS-100型 ・大きさ(cm) 5.3x5.5x13.1 ・重さ(g) 38 ・その他の構成品 気球・パラシュート・吊ひも		
	RS-11G型 ・大きさ(cm) 9x7x16 ・重さ(g) 85 ・その他の構成品 気球・パラシュート・吊ひも		

・観測機器の落下推定位置（福岡管区気象台の例）



冬季（1月）は瀬戸内海および四国への落下が多くなります。

夏季（7月）は九州北部への落下が多くなります。